

環境省脱炭素経営促進メールマガジン

太陽光発電 EIA、家庭 CO2 排出、欧州低炭素ベンチマーク、豪州、世銀 CP、ホンダ(2019 年 3 月 11 日配信)

○環境省等の政策・取組

●【環境省】太陽光発電施設等に係る環境影響評価の基本的考え方に関する検討会報告書を公表しました

環境省では、環境省影響評価法の対象事業に太陽光発電施設を追加すべきかどうか、基本的考え方や規模要件、環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法の基本的考え方などを昨夏より検討会を設置して検討しており、今般、特に大規模なもの（1種4万kW、2種3万kW）は法アセスの対象とする等の内容の報告書をまとめました。今夏をめどに環境影響評価法施行令の改正手続を行う予定です。

<http://www.env.go.jp/press/106534.html>

●【環境省】2017年度家庭部門のCO2排出実態統計調査の結果が確定しました

環境省では、2017年度から、家庭部門のCO2排出実態統計調査を実施しており、確報値としては初めてとなる調査結果を取りまとめました。世帯構成、住宅の建て方、電気、ガス等の消費量や家電製品の使用状況などを調査しており、例えば、高齢世帯は若中年世帯に比べてCO2排出が多い傾向にある、二重サッシまたは複層ガラスの活用により暖房が約24%省エネになっているといった結果が出ています。

<http://www.env.go.jp/press/106537.html>

●【環境省】2018年度エコチューニング事業者認定結果及び2019年度エコチューニング技術者資格講習会日程の公表について

「エコチューニング」とは、建築物の快適性や生産性を確保しつつ、エネルギーの使用状況等を分析し、軽微な投資で可能となる削減対策も含め、設備機器・システムを運用改善する取組です。環境省では、業務用等建築物の「エコチューニング」による光熱水費削減で収益を上げるビジネスモデルの確立を目指して、技術者資格認定や事業者認定制度を創設しています（現在は民間運営）。2018年度には新たに13事業者が認定され、全認定事業者数は119社になりました。2019年度の技術者資格講習会の日程も発表になりました。

<http://www.env.go.jp/press/106536.html>

エコチューニング技術者資格認定制度・事業者認定制度運営事務局「エコチューニング推進センター」

<http://www.j-bma.or.jp/eco-tuning/>

●【エネ庁】木質バイオマス発電について、由来の証明により適切に分別管理された木質バイオマスを調達し、使用するよう、注意喚起がされました

資源エネルギー庁は、2月25日付で、FIT認定を取得した木質バイオマス発電事業者に対して、木質バイオマス証明ガイドライン（林野庁）に基づく由来の証明により適切に分別管理された木質バイオマスを調達し、使用するよう、注意喚起しました。全文はこちらです。

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/announce/201902_biomass.pdf

○発電利用に供する木質バイオマスの証明のためのガイドライン（林野庁）

(http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/biomass/hatudenriyou_guideline.html)

○脱炭素の取組動向

●欧州議会とEU理事会、低炭素ベンチマーク定義に2カテゴリーを新設することで合意

2月25日、欧州議会とEU理事会は、投資ポートフォリオのカーボンフットプリントに関する基準となる投資家向け低炭素ベンチマーク定義について、2つのカテゴリーを新設することで合意しました。

投資家向けベンチマークとは、投資信託などの金融商品の運用成績を投資家が評価・測定するための「基準」や「比較対象」で、多くの投資家がこれに基づいて投資した金融商品の運用成績を評価・測定しています。例えば、日本株式に投資する投資信託の場合、株価指数である日経平均株価やTOPIX（東証株価指数）がベンチマークとして設定されることが一般的です。

今回の合意は、EUがサステナブル・ファイナンス政策を推進していく上で、低炭素ベンチマークに対するEUとしての定義を明確にするべく、以下2つのカテゴリーを新設する内容となっています。

1) EU気候移行ベンチマーク（EU climate transition benchmarks）：

パリ協定の長期目標を考慮して、2022年末までに測定可能で科学的根拠に基づく削減パスを描き、削減を進めている企業に対して設定するベンチマーク

2) EUパリ協定整合ベンチマーク（EU Paris-aligned benchmarks）：

パリ協定で定められた温度上昇抑制目標達成に貢献していることを示すことができる企業のみを選択する、さらに野心的なベンチマーク

また、既存のものも含む全ての金融ベンチマークについて、ESG要素が投資戦略へどのように反映されているかや、排出削減目標とどのように整合するか、説明することが義務化されます。

今後、これら定義についてEU大使の承認後、法的な文言の改定がされ、欧州議会とEU理事会にて正式採択されれば、法的効力を持つことになります。

<https://www.consilium.europa.eu/en/press/press-releases/2019/02/25/sustainable-finance-presidency-and-parliament-reach-political-agreement-on-low-carbon-benchmarks/>
http://europa.eu/rapid/press-release_IP-19-1418_en.htm

●オーストラリア政府、パリ協定に基づく削減目標（NDC）達成に向けて 35 億豪ドルの「気候ソリューションパッケージ」を発表

2月25日、オーストラリア政府は、2030年までにCO2排出を2005年比26～28%削減するとの目標（NDC）の達成に向けた施策として、合計35億豪ドル（約2,750億円相当）の「気候ソリューションパッケージ」を発表しました。

柱となるのは、環境・エネルギー省が2014年に設立した「排出削減基金（ERF, Emissions Reduction Fund）」を改定した「気候ソリューション基金（CSF, Climate Solutions Fund）」です。同基金を通じて、排出権を売却した収益から20億豪ドルを農家、中小企業、先住民コミュニティ等が実施する排出削減プロジェクト（高効率照明・家電による省エネや山火事の予防、廃棄物管理などオーストラリアの環境に適したもの）に投下し、2030年までに1億トンの排出削減を目指す方針です。また、政府予算から15億豪ドルを支出し、水力・風力発電の拡張プロジェクト、住宅およびオフィスのグリーンビルディング化、地域社会の対策への支援などに充当される計画です。

<https://www.pm.gov.au/media/meeting-our-climate-commitments-without-wrecking-economy>
<https://www.environment.gov.au/climate-change/climate-solutions-package>

●世界銀行、カーボンプライシングに関する国際研究会議を開催

2月14、15日、世界銀行グループとカーボンプライシングリーダーシップ連合（CPLC: Carbon Pricing Leadership Coalition 世界銀行グループの主催により2016年に設置された、カーボンプライシングを推奨する国や国際機関、企業等の連携枠組み）はニューデリーでカーボンプライシングに関する国際研究会議を開催しました。30名を超える研究者と150名の参加者が集まり、カーボンプライシングの知識基盤の構築に対する投資・取組の継続と、研究者と実務家間でのコラボレーションのプラットフォームづくりについて、討議しました。

討議は、以下6つのテーマを設定して行われました。

- (1) 経験から学ぶ
- (2) カーボンプライシング・デザイン
- (3) コンセプトと方法

- (4) 政治経済
- (5) 経済の脱炭素化
- (6) 新興フロンティア

各テーマの議論を総括として、炭素価格設定の研究の充実が必要であることに加え、研究者と実務者の連携や学会・政府・企業・市民社会の中で炭素価格政策の有効性や使用方法をより良く理解するために多様な視点を示すことが重要であるとされました。

世界銀行グループと CPLC は、今後も国別の具体的な研究や炭素価格設定の実務など、カーボンプライシングに関する知識創造を支援し、さらなるコラボレーションのためのプラットフォームを提供すると表明しました。

<https://www.carbonpricingleadership.org/research-conference>

<http://www.worldbank.org/en/news/feature/2019/02/21/investing-in-our-knowledge-base-the-worlds-first-international-research-conference-on-carbon-pricing>

<https://www.worldbank.org/en/news/feature/2019/02/21/investing-in-our-knowledge-base-the-worlds-first-international-research-conference-on-carbon-pricing>

●HONDA、2025年までに欧州で発売する四輪商品をすべて電動車両にすることを目指すと発表

Honda は、スイス ジュネーブで開催されている 2019 年ジュネーブモーターショーで、2025 年までに、欧州で販売する四輪商品のすべてを電動車両に置き換えることを目指すと発表しました。また、Honda として欧州初となる新型電気自動車「Honda e プロトタイプ」を公開しました。さらに、電力系統と電気を融通しあうエネルギーマネジメント技術を、EV 用充電ソリューションを提供するスイスの EVTEC（イーブイテック）社と共同開発中で、数年以内に事業化する予定であること等を発表しました。

<https://www.honda.co.jp/news/2019/4190305.html>

●環境省の 2019 年度予算事業の公募等が始まっています。是非ご活用ください。

- ・環境省再エネ加速化・最大化促進プログラム

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/lca/co2reduction.html>

- ・2019 年度エネルギー対策特別会計概算要求 補助金・委託費等事業（事業概要）

<http://www.env.go.jp/earth/earth/ondanka/energy-taisakutokubetsu-kaikeih31.html>

- ・わかりやすい！主な事業の自治体・事業者向け解説書

http://www.env.go.jp/earth/post_46.html

- ・脱炭素経営促進ネットワークに参加しませんか（随時募集中：現在目標設定会員 41 社、支援会員 29 社）

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/dms_trends.html#coutents_no

05

- ・2019年度グリーンボンド発行モデル発行事例を募集しています（2020年1月24日まで）
<http://www.env.go.jp/press/106490.html>

●脱炭素関連ポータルサイト

グリーンバリューチェーンプラットフォーム

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/index.html

「企業と投資家のためのESG対話プラットフォーム」環境省 環境情報開示基盤整備事業

<https://www.env-report.env.go.jp/>

グリーンボンド発行促進プラットフォーム

<http://greenbondplatform.env.go.jp/>

日本版タラノア対話ポータルサイト、「タラノア JAPAN - 未来を拓く、あなたの温暖化対策 優良事例ポータル」

<http://copjapan.env.go.jp/talanoa/>

事業者のためのCO2削減対策Navi

<https://co2-portal.env.go.jp/>

L2-Tech 情報プラットフォーム

<http://l2-tech.force.com/>

環境省「ZEB PORTAL - ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ゼブ）ポータル」:

<http://www.env.go.jp/earth/zeb/index.html>

気候変動適応情報プラットフォーム

<http://www.adaptation-platform.nies.go.jp/>

環境省 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/cpttv_funds/index.html

低炭素水素サプライチェーンプラットフォーム

http://www.env.go.jp/seisaku/list/ondanka_saisei/lowcarbon-h2-sc/index.html

環境省脱炭素促進メールマガジン

発行元：環境省地球環境局

※宛先の追加、変更、配信停止の操作は以下のサイトをお願いします。

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/mail_magazine.html

環境省脱炭素促進メールマガジンのバックナンバーもこちらで公開しています。

上記よりアクセスできない、その他お問合せの際は

decarbonize@env.go.jp

までご連絡下さい。
